

奈良柳生ＣＣの創業３３年、再生２５年を振り返って

代表理事 遠山隆重

弊私、７月２６日に傘寿の誕生日を迎えました。平成４年に奈良柳生ＣＣの代表取締役社長に就任してあっという間に３３年が経過しました。第３６期決算は株主会員にお送りした事業報告書通りですが、会員の皆様のご理解を得てお陰様にて、２５年間の再建過程としては応分の決算を取り組むことが出来ました。心から厚く御礼を申し上げます。

想えば奈良柳生ＣＣの開発の動機は、箕面ＧＣが「企業の寿命３０年」説が取沙汰された時代に３０周年を迎えたことにあります。当時、昭和６０年にはゴルフ場数が１,３８０コースであった中、需給バランスが良好であったことから、２１世紀には２,０００コース時代になるのは確実との業界全体の判断もあり、弊社も企業再活性化を意図してゴルフ場の新設を企てたのです。奈良を適地としたのは関西学研都市開発計画で東部関西が大きく発展すると予想したからでした。昭和６０年に地上げを開始しましたが、不運にも地上げの半ばにバブル激動に襲われました。地価が高騰して地上げが壁にあたり１１年に亘る苦難につぐ苦難があり、平成８年によりやうく竣成しました。

有難くも東海銀行に親身のサポートを頂いてオープンに漕ぎつけ、式典で隣接ライバルコースであった奈良スポーツ振興ＣＣの木下俊雄社長から「私も奈良のゴルフ場完成に１４年掛ったが、遠山さんが１０年でやり遂げたのは瞠目の至り」と開発のプロからお褒めを頂いた思い出もあります。

しかし、バブルの崩壊で会員募集が３７２口で停滞し、箕面ＧＣが保有していた奈良柳生ＣＣの会員証券２７８枚を東海銀行に譲渡担保してオープンに要する融資を賜り、開設に必要な清算を行ったうえで民事再生法の適用を申請することが許されました。

東海銀行に譲渡担保した会員権は永久債とさせて頂きました。その後東海銀行が三和銀行と合併、三菱銀行と合併となりその際にドイツ証券に譲渡された会員権を買い戻して販売し、これまでに１,２１７名（内永久債会員６１０名）の会員を擁する会員制ゴルフ場として立ち直ることが出来ました。

会員権を永久債とできたのは、平成１０年にバーゼル銀行監督委員会が、金融機関が永久劣後債を自己資本へ算入することを承認し、同年に我が国も三井生命の救済に２５０億円の永久劣後債を発行した際、大蔵省の長野庵士証券局長が「永久債は非課税である」と認めた事実があったからでした。

実は永久債はこれまで全額課税対象とされていましたが、箕面ＧＣは昭和４７年にマリーナ事業で永久債会員権を発行していました。しかしそれは、①国有海面での事業で固定資産性が薄い。②少額である。③石原慎太郎が发起人である。として例外的に非課税として認められていただけでした。

偶然にも、私の卒論テーマが有価証券法、証券取引法、米国SEC法がらみで、当時急拡大したコングロマリッド企業の研究だったのが幸いしました。当時ではM&A研究は斬新でしたが、そんなことから、ゴルフ場の預託金会員制度の法的な立付けには当初から大きな違和感を抱いていました。

学生時代、ゼミの教授が「東大は法を制定し民を制す。わが校は法の行間を読み民を利するべし」と教えられ心に刺さっていました。「ノン・コンフォーマリスト精神」、ゴルフ場の再生にあたっても預託金カット再生の通説に反し、額面ノーカット永久債化による会員制堅持の再建策を実行しました。

コース設計者に創業者遠山利三の旧友であった加藤福一氏を得たことも幸いでした。「遠山さんが箕面GCで実現できなかったことを奈良柳生CCで私が叶える」と意欲的でした。また「これからのゴルフ場はプロ競技に適応するだけでなく、86歳でも楽しくゴルフができる設計が必要だ」と特別に気を遣ってくれ、「この山での設計は簡単だった、願ったとおりの楕円形の敷地を地上げをしてくれたし、土質も砂山を撫でるみたいな真砂土だったので工事も順調に進んだ。13番城跡と18番の公道境界以外ではさほど制約を感じず殆ど思い通りに完成した」と自身の晩年自慢作としていました。

コースコンセプトも教科書通りとし、ワングリーンでバック7, 200yds、IP260yds、ティーは400yds刻みの5面とし概ねコース全体が見渡せ、インとアウトでフェード系、ドロー系ゴルファーともに公平感を感じるよう池の形状にも工夫を凝らしたチャンピオンコースだと説明していました。

また設計者は将来を見越して「極端」を排したことがその後競技開催者からも好評を得て、33年の歴史のなかで、光栄にもJGTOのQTなどプロ競技21回、学生競技25回など70余回の公式競技を開催頂き、内外の多くの関係者に評価頂けるようになりました。

日本のゴルフ場数は、奈良柳生CCの事業開始時点では1,380コースであったものがバブル期を挟んで2,460コースにまで増加しました。結局、供給過多となり破綻も相次ぎ、現在では2,187コースに減少しています。いずれは更なる少子高齢化の波が及んで1,750コース程度にゴルフ場数が減少するとの予測もあります。倒産した321ゴルフ場を糾合したPGM社など、巨大ゴルフ場企業がゴルフ場運営の形態を会員制からパブリック制に転嫁している現在、会員制ゴルフ場は年を追って減少していくとも予想されています。しかし、奈良柳生CCは今後とも古典的な会員制ゴルフクラブとして堅持して参りたいと考えております。末永く会員の皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

以上